（三日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭日第一、第三日曜
定價　壹ケ月五十錢、壹枚二錢、郵稅十錢
廣告料　二行十錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

齲齒の豫妨に就て
石城郡齒科醫師會

五月四日は全國ムシバ豫はあります。防デーで郡市科醫師會では之れが豫妨について本文の如き注意書を配布した

今日は全國ムシバ豫防デーであります。この日を機會に總ての國民が齒に就て眞劍に御注意あらん事を望みます。

ムシバは文明に伴つて起る病氣であるとまで言はれてゐますが、文明が進むと食物の料理が種々に工夫されて、柔かく齒に附著し易く、食物の質も齒のために惡いものとなる、顎骨や齒がだん〳〵と弱くなりムシバに罹り易くなりました。現在我國の家庭で一本のムシバも無く一度、齒の痛みを知らない方が何人ありませうか。我國の兒童が百人に九十人迄もムシバに惱まされてゐる、之が爲めに体質が弱くなるばかりでなく精神にも怖しい害を受ける事實を考へならば、今にして日本の國からムシバを撲滅せねば將來の國力に及ぼす影響の如何に重大であるかといふ事に氣附かれませう

なぜムシバが起るか

齒の表面の珐瑯質といふ部分は、その全部が燐酸石灰で出來てゐるので鑛物のやうに堅固でどんな堅いものでも嚙み碎く事が出來ます、非常に硬い代りに酸に遭ふと割合に溶け易いのであります。

處が、困つた事には口の中にバイキンが棲んでゐて食べ物のカスが殘つてゐると忽ち集まつて來て之を強い酸に變へてしまふ働きを持つてゐるのです。從て口の中の掃除を怠るとバイキンと食物の滓と共働して造つた酸が齒を溶かすのであります。之れがムシ齒の初まりです。ムシバが、食物滓のつき易い齒と齒の間や、齒の表面にある滓や凹んだ處から起り始める

珐瑯質の表面が溶けてザラ〳〵になると、食物の滓も一層溜り易くなるし從て酸も發生し易くなつてムシバはだん〳〵進んで行き珐瑯質の内部にある象牙質に達すると象牙質硬くないから今までは小さな穴であつたものが急に廣く深く擴がります。

如何にしてムシバを防ぐか

日常の豫防法としては「齒を清潔にして置く」ことで完全に防げます。齒や口の中を常によく掃除して食物の滓やバイキンをなくする事が第一です。

齒ブラシと齒磨の使用及び含嗽は有効な方法です。齒ブラシは朝起きた時の外に夜寢る前に使することが肝腎です、バイキンが齒を溶かす仕事は多く寢てゐる間に行はれるのですから、寢る前に掃除するのが最も有効です。齒ブラシは齒の生へてゐるやうに上の齒は上から下へ、下のハは下から上に、上下、縱にこするのが宜しく前バも奧バも内側も外側も咬む面も殘らず磨くのです、これは子供の時から敎へるやうにすれば良き習慣となるものであります。

食物をよく嚙む事もハを清潔にする一方法です。よく嚙むと唇や頰の筋肉が活動してハを磨擦するばかりでなく野菜や肉類のやうな纖維の多い食べ物は其の纖維がハの表面をよく磨擦しますからハ汚物を取り去る上に唾液が出て來て洗ひ流します。食後に澤庵や菜漬のやうな漬物をよく〳〵嚙みますと非常に有効です。

新暦六月四日
舊暦四月二十七日

▲一白 思惑外[illegible]の如くならざる日増資も凶▲二黑 野心を起さず遲々たりとも本業を守るべし▲三碧 一とくでは世の中は通れぬ日穩順なるが吉▲四綠 鈍底は過ぎたりとも尙隱忍し居るべき日▲五黃 常業以外のことに手を出さず成を守るべき日▲六白多少障碍ありとも撓まざれば思ふ所に達す▲七赤 口舌さへ愼めば何事も結滯なく上首尾の日▲八白 氣を快濶に家内一致して働くべし飲食注意▲九紫 地の理人の和を得たる日相談ごと皆調ふべし

小說　死を超ゆる者
(1)　三上於菟吉作　布施平八郎畫

小公園の逢曳(一)

夕ぐれになつて、一日吹き荒れてゐるこがらしはひつそりと吹き止んだが、どうやら雪もよふらしく曇つて來た、しん〳〵と身を切るやうな寒さである、冬になつてから殆ど人足が絶ねてしまつた江川公園はこんな夕方にはまるで荒れ寂れた廢墟の一角を見るやうだつた、對岸の工場らしい建物はすつかり鎧戸を下してしまつてにぶい電燈の光さへさゝず、崖下の川水は澱れ澱んで微かな音も立てなかつた。たゞ黑い暗の森の方で鳥が荒々しい叫びを立てたそしてその聲が消ねたあとでは四邊はまたもとの寂寞にかへるのたつた

ふと、その凄い程の沈默を破つて低い小刻みな足音がした。

足音の主は年頃は十八九にもならうか、髮を何の飾氣もない束髮に上げて細い肩を紫の肩掛に包んだ、紅面で色白な溫順しさうな娘であつた

その娘は蒼い光を投げてゐるアーク燈の下まで來て立止まつて、睫毛の長い切れ長な目を上げてにたりを見まはしたが、誰も人氣がないのを見るとホツと溜息をしてぐつたと灰色のベンチに腰を下した。娘は小さな顔を紅いメリンスの襟に埋めて、手を袖口にかくしてうな垂た、そしていつまでも動かなかつた

とそれから四五分か多くも七八分とはたゝない頃だつた、今度は馬鹿に荒つぽく小砂利を蹴り付ながら來る駒下駄の響きが近づいた 娘はハット顔を上げてそちらを眺める。夕闇を通して瞳に映つたのはスラリとした長身を黑マントに包み角帽を冠つた青年の姿であつた。娘は腰掛から身を起してその方へ歩み寄つた

「やあ——ときさん、大變待つた?」

と青年は朗かな聲で叫んだ

「いゝわ……でも、隨分待ちましたわ」

二人がアーク燈の下に向合つて立つた時娘は答へた 青年は普通より丈高い方なのでとな子と呼ばれた娘はぐつとあふむいて相手の顔に見入つた

「もつと早く來る積もりだつたんだけど友達がやつて來て、學級の忘年會の打合せなんかしてゐたものだから……」と男は答へた

そしてりゝしく引緊つた唇を綻ばして微笑んだ

「僕あときさんが川で凍ねてしまうかと思つて氣が氣ぢやなかつた?」

「まあ!」と娘は寂しげな眼を笑ませた

「いつでもそんな御冗談ばかりおつしやるのね」

青年はしかしすぐに眞顔になつた

「で一体君の心配事つてのは何んな事なの?いつもの通り簡單な手紙の文句だつたので却て氣を揉んぢやつたが……」

とき子はその顔をじつとみつめてうな垂れた

「一体どんな?」と大學生は繰返した

少し込入つた事なんですの……」

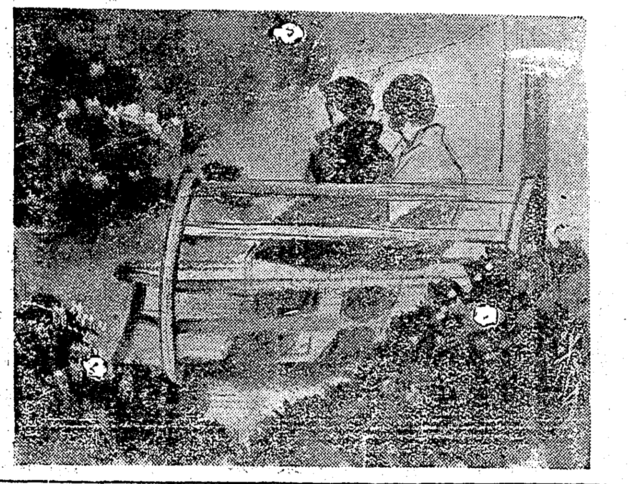
「そこへ掛けよう」

二人は今迄娘が腰を下していた灰色のベンチに坐つた

「君、寒けりやあ僕のマントを貸さうか?」

「いゝえ大丈夫ですわ」

「僕もね、君に話しがあるんだ、尤も僕の話はいゝ話しなんだよ、樂しい話なのだよ」



廣告
痔の最高內服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角 山野邊藥局

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

廣告
シボレー一九二七年式
中古 乘用自動車一臺
極く低廉に是非讓り渡したし希望の方は來談下されたく御相談に應じます
湯本町表町（山形屋旅館前）
赤津八太郎

五月二十日より
（二階にて）今年の最新流行柄を澤山に取揃へて
中形浴衣地陳列
何卒御來觀の程偏に御願ひ申上げます
◆婦人俱樂部浴衣 ◆家元好み音曲ゆかた
◆都會行進曲浴衣 ◆萬治ゆかた地
◆スター好み一葉ゆかた ◆王章ゆかた
◆名菊ゆかた ◆外十數種陳列
夏物第一回涼味そゝる
最も新しい柄の
絹小紋と絹友仙の會
平町三丁目
三井呉服店

レコードハ
此のマーク!を
HIS MASTER'S VOICE TRADE MARK REGISTERED
肉聲のビクターレコード
販賣店 會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入。壹俵 金六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御徳用ナ㋡ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 ㋡阿部石炭商店
電話二三七番

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御敎授いたします、たゞ遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
㊇釜屋商店
諸橋久太郎
電話九一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

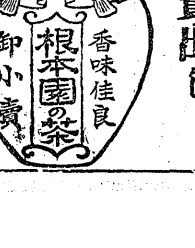
釀造元
清世界
㐂清水屋
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
小野晋平
電話六番

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番
サシミ

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
花柳 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸病性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

營業種目
百 佐藤材木店
內地材 材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達
請負 其他
常磐線平町新川町
電話三三五番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

四月廿二日より
◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎
根本園の新茶賣出し
香味馥郁たる新茶正に千金の値打あり長壽を欲する御人は召し上れ御早く
◎新茶は（ウイタミン）含有す多量に
平町四丁目
根本園茶店


入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

器械新設
体溫計無料撿査
皆樣の御手元まで御覧に入れました引札の如く今回最新優秀なる撿定器を設置し無料で撿査いたしますから御遠慮なく御持來を願います
（撿査日）每月十日
指定販賣所
平町二丁目
西村屋藥舖
長電話三番

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾、皮膚病 市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）
電話一一四番

出所進退甚だ公明を缺く 伏見町長の態度に批難
今や全く民政黨の番犬となる 新町會の重大な問題

平町新議員による初町會は來る十日午前十時より開き議席順番を定めたる上各種の委員を決する筈で政、民兩派は其の人選振當てに相當の苦心を拂つてゐるもの如くである、而して新町會に絶對多數を有する政友派並に中立議員大勢の輿論として特に注目を拂はれてゐるのは伏見町長近來の態度は其の

出所進退 甚だ公明を缺き動もすれば民政派殊に野崎滿藏氏の鼻息を窺ひ過ぎるかの觀ある一事である然かも前伊坂町長退職後、當面の敵として不倶天戴の仇の如かりし伏見町長と野崎氏は過般執行された町長選擧以來相離る可らざる緣果關係が生じ野崎氏は伏見町長を見る恰も自己の雇入か代辯者の如く見くびり伏見町長もまた野崎氏の前には宛ら番犬の如く易々諾々として

其の鼻毛 を讀まざる可らざる憐れむべき事情に立ち至り町長としての權威と信用とは全く失つて殘す處なき有樣である、即ち這般の町議選擧に際し最も公平を要すべき立會人の撰任に當つて見るも之の間の消息容易に窺知するに足るものがある即ち其の人選は會川卯三郎(民)星野康治(政)山野邊義政(民)槇木恒(中)の諸氏にして殆むど新例を開き辯護士を立會人たらしむる必要上山野邊義政氏の如き然かも濃厚なる民政黨員を撰ぶ以上は政黨的に之れと對抗し得る新田目善次郎氏か門傳滿吾兩氏の內一人を撰ぶことが

最も妥當 公平であるに拘はらず政黨的に嚴正中立である槇木氏を撰任した事は餘りに民政黨の注文にのみ從つた證左にして町民より如何に批難されるとも伏見町長に一言公明なる辯解の辭ある筈なく之れは要するに山野邊氏を立會人たらしむる爲めの方辯に申譯的に槇木氏を加へたのみで實質上民政派の利益を計る目的の人選であつた事は

一點疑ふ の餘地なく今後町會議員の委員割振り並に總ての點に於て伏見町長の態度には可成り嚴重なる監視の必要ありとし町會議員並に有志間に問題となつてゐるらしく重大なる視注の的となつてゐる

石城郡で一ケ月 五萬餘圓を消費
平元賣捌所調べの 煙草の消費金額

石城郡内に於ける去月中の煙草の消費高を平町煙草元賣捌所で調べて見ると五萬六千七百七十二圓三十三錢五厘で種別は口付二萬七千六百六十七圓九十六錢四厘兩切一萬一千六百七十圓二十九錢、刻一萬六千五百一圓八十九錢七厘、外國煙草二百二十八圓十八錢四厘で口付の方では敷島の値上げのため朝日が滅法賣れ行きが好く二萬一千三百六十二圓六十七錢で個數は十六萬二十個次は敷島の六千三十三圓二錢(三萬七千五百八十個)その他で兩切は何と言つても安値の勞働者向きのバットで個數に於ても最高を示してゐるバット一萬七百六十八圓五十五錢(十七萬二千八百五十個)(胡蝶)二百四十圓三十錢(四千五百個)(エアーシップ)四百五十四圓九十六錢(二千九百三十二個)刻は總高一萬六千五百一圓八十九錢となるが內譯は(なでしこ)七千二百八十六圓二十五錢(六萬二千四百五個)(あやめ)四千二百十圓八十五錢(六千八百六十二個)(はぎ)四千百九十二圓四十三錢(二萬千二百六十個)外國煙草は(ロビン)が百七十八圓(二千個)(ハッピー)百三十三圓五十錢が主なるもので總高三百二十八圓十八錢四厘で一日平均一千八百七十二圓四十一錢一厘が煙になるわけである

平監督所を目がけ 道路改修の陳情
過日の洪水害以來 當局も手を燒く

石城郡各町村では縣補助町村工事として昨年河川堤防の改修工事をなすべく補助申請をなして居る町村が非常に多いが縣から補助指令がないため町村各工事に大支障を來して居た矢先過般の大水害には更に改修個所が增加し而も昨年の工事に對する補助指令さい來ないので愈々各方面に於て大支障を來して居るためこの際一日も早く指令に接する樣にと毎日平土木監督所では各町村から陳情攻めにあつてゐる

鈴木町長の 敍勳披露
けふ公會堂で

小名濱町長鈴木榮氏は自治功勞者として勳七等に敍せられたので今三日午後一時より町會議員有志約六十名を招待し公會堂に於て披露の盛宴を張つた

郡齒科醫師團 ムシバ豫防
あす自動車で

石城郡シ科醫師會では明四日の全國ムシバ豫防デー當日醫師團總動員出動し四臺の自動車に分乘一千枚のポスターを各所に貼り七萬枚の宣傳ビラを郡下各小學校に訪問宣傳する筈である

平、新町議に望む
不知何許人

劃時代的の平町會普選初回の町議戰も終りを告げ今其の戰績を閲みするに大衆の覺悟未だしき爲め普選の第一戰法となる文書と言論戰は殆んど絶無に近く相變らず潛航式の戸別訪問や個々面接が半ば公然と行はれ買收、饗應等の惡例が依然として繰返され嚴密に言へば選擧違反をなさゞる候補者は皆無と云ふも差支ひなき迄に眼覺める大衆が爲には普通選擧も腐臭選擧になり果てしこそ心あるもの、長嘆息を禁じ得ざるものがある

當選議員の中にも民政黨公認の看板を掲げて得々然たる者あり自治の政黨化を敢て公然と表明し誇りとなすものあり之れ等は果して自治の精神を理解し居るや否やを疑ふものである

時に多數人相會すれば必ず其處に異同の集團を生ずるは免れ難き習性なりとは云へ準備的に政黨を直ちに採つて自治に活用せんとするは誤りも甚だしきである即ち政黨政派は一國の立法に參與するもの、時に於てその町村の自治体に其の要なきは説明を要せざる所である

平町議三十名の諸君は町議として町政に參與するに當りては希くは黨派根性を捨てゝ實際問題に就て町の利害を考慮し大衆の利益の爲めに總てを超越し面目を犧牲にするの覺悟を以つて古人の所謂其人によりて其言を捨てずの主義の下に假りに反對黨と目する人の言なりとも平町の利益とならば進んで贊成いやしくも黨派に執着して反對せんが爲の反對的態度に出るが如き事の無いよう切に希望するものである

要するに平町會は町民の町會にして一黨一派の町會にあらざる事を知らねばならぬ此の深刻なる不景氣時代に於て年七十萬圓近くの多額の負擔に甘せざる可らざる平町民の代表として起たれたる町會議員は宜敷く町民の利益の爲め懸命の努力を貢獻とを惜まさらん事を切望するものである。平町が今日の旺盛を來たした所以のものは附近炭礦の爲めであることは論を俟たないが其附近の炭礦は今や衰滅の時機に向ひつゝある時に炭礦を背景に大平市を建設せんとすることなく是非とも他に平町發展の方策ありを求めねばならぬ諸君の大なる考慮を要する問題なのである切に自重を祈る。

平驛舍工事
十七日頃竣工

平町丸山組によつて目下工事中の平驛舍は來る七月十五日落成の契約によつて着工されたが同組では日夜工事を急いだ結果意外に進捗し來る十七、八日ころには竣工する事となつた同驛舍は二階建のモダン的なもので平町、偉觀であるばかりでなく常磐線中にたいても相當異彩を放つものである

苗代被害は 自力で恢復
石城農民對策

石城郡內苗代被害は既報の如く相當廣面積に亘つたが郡農會で技術員を派して應急對策を講じた結果と天候回復から大なる被害を免れたところは漸く立直り現在の狀況では心配した程のがないため農民自身の道德心に訴へ苗不足の村へは移植に際し薄植として融通し又は直播者に對しては籾々融通することにしてこの場を切り拔け低利資金といふ他力に賴らず今回の災害は天の試練としてあくまで現在の窮境を農民自身の手に依つて解決しお互の復活をはかるといふことになつた

湯本町議戰
來る十二日執行

石城郡湯本町會議員選擧は來る十二日執行されるが一日立候補を屆出でたものは矢吹佐渡部長作で屆出での皮切りだが入山炭礦側からは職員中比佐源三、鯨岡源德、松茂庄一の三氏及び元飯塲頭坑夫組長鬼澤八百松外一名が出馬するらしく磐城炭礦よりは木村德三郎氏立候補する模樣であるが定員十八名に對し立候補二十一名に達する模樣である

植田營林署
管轄區域きまる

石城郡植田町に新設された植田營林署は既報の如く町役塲學務所內に置くが署員は十五名で平署より九名轉任する筈である因に同署の管內區域は左の如くである

植田町、小名濱、湯本、磐崎、鹿島、江名、玉川、上遠野、入遠野、石住、貝泊、荷路夫、田人、川前、泉、渡邊、山田、錦、勿來町、

十五日頃から繰業 片倉磐城製糸

昨秋より工事に取りかゝつてゐた片倉磐城製糸平町工場はこの程漸く落成し機械の取りつけも大体終了したので十日頃には試運轉する運びに至るものと見られてゐるが操業開始は十五日頃になる模樣である

佐藤氏歸省す 平町

前助役佐藤要四郎氏は任期滿了後休養中であつたが家事上の都合により今三日家族を取り纏め宮城縣伊具郡角田町に歸省した

月に一千萬石
之れから益々多くなる 平町の使用水量

平町の本年一月から四月末日までの水の消費量を水道課に聞くと約三千九百七十五萬八千二百十一石八斗となり一ケ月約一千萬石を消費してゐるか使用は湯屋十三軒、私設共同栓二百個公設六十個、噴水十五個其の他で暑くなればなほ使用水は多くなる見込みで市內の撒水自動車は一日平均五石位を使用し工業用、飲料の料金は四ケ月間總額一萬六千百二十五圓二十錢に達してゐる

異動地調査
怠ると嚴罰

平稅務署では去る一日より無屆異動地の大整理に着手したが同署では調査の徹底を期すため管內各町村役塲へ印刷物を配布して注意を促したなほ六月末日までに移動地の正式屆出を怠る者に對しては嚴重處罰する方針であると

求職者俄に減少
農村と濱の漁期で 平紹介所の昨今

石城地方のこの頃は農家は春蠶、植田漁業は夏漁の本期節に入り日毎に繁忙を加へつゝありこの方面に吸收さるゝ人々は例年多數に上つてゐるが不況の結果とて著しく多數にあつた求職者のために相當緩和さるゝに至り平職業紹介所も最近滅切り減少し三日に一人乃至二人の求職者が辛ふじて訪れる有樣で現在比較的多くある求人者に對し圓滑に供給をなし得ぬ有樣であり同所では目下縣下及縣外の公設職業紹介所と一層聯絡を密にして就職者の斡旋に努めつゝある

末決勝
磐中と安積 中等校野球戰

同業磐城時報社主催中等校野球大會は二日午前十時より平町磐中球場で擧行した戰績は安積二三—田村五で安積快勝し、磐中七—相馬六で安積對磐中の決勝戰となり大接戰を演じて八回戰に磐中十八—對安積十一でドロンゲームとなつたので決勝は今月下旬に行ふ筈

金庫ぐるみ盜難
在中僅か十二錢の 錦村の怪盜珍聞

石城郡錦村大字江栗醬油味噌釀造業星友太郎氏方では去る三十日夜村會議員に當選し家族一同嬉しき夢路を辿つた翌曉午前二時頃一人の賊忍び入り何物か持ち去らんとした物音に家人が眼を覺して誰何したが、賊はそのまゝ姿をくらましてしまつた一同起き出でゝ紛失物を調べて見るに神棚に上げて置いた子供の玩具金庫一つ盜まれた事判明した。中には僅に十二錢しか入れてなかつたが以前二十數圓を入れて置いた事もあり他の家財道具に目もくれずこの金庫のみを持ち去つたのはよく事情を知る不良青年の所爲らしく然も賊は便所の汲口より入り同所より逃去りたる不敵な行爲なる爲め植田警察署に於て嚴探中であるが既に目星はついてゐるらしい

平第二校旅行

平第二小學校百五十名の仙臺方面への修學旅行は三日午後七時三分にて歸平すると

石城地方の けさの地震
最大震幅一粍四

石城地方一帶に亘り三日朝の地震は午前六時三十五分五十三秒六から震動し約十六分十二秒に亘つたが小名濱測候所の觀測によると震源地は南西を距る四百粁の地點で紀州熊の灘沖で強震で最大震幅は一粍四であつた

內郷校の見學

石城郡內郷村小學校では六年生高等二年生から希望者を募り明四日特別列車を任立て日歸りで東京市の見學をなすがこの計劃に村は約半分の補助をなすことゝなつた

勇敢な三人
知事より表彰さる

石城郡錦村の大島友太郎、赤津芳之助、山部丹治の三名は去月二十三日同郡植田町地內の大洪水の際同町蒲井久吾方一家が危險に瀕してゐるのを身を賭して救助したので六月一日右三名に對し縣知事から金一封を添へて表彰した

江名町議選
當選者の氏名

江名町會議員選擧は一日執行の結果當選者左の如し

黑川喜一郎、吉原龜吉、加澤一藏、佐藤己之藏、太衛左衛門、澤辰之助、吉田政雄、河野七之助、作山庄司、小松金次郎、江尻藤次郎、金成喜重、加瀨盛彌、近藤吉松、中山茂吉、吉田大次郎、作山喜作、及川藤次郎

樂遊一行來る

東京浪曲界の元老東家樂遊樂燕の一行は三日午後六時より平町聚樂館で開演に決したが一日限りの興行で前人氣を博してゐる

食肉需要
年々增加の傾

平町地方の食肉類の需用は年々增加の傾向にあり平町屠殺場で五月中屠殺したものは牛十頭豚百十六頭馬六頭、合計百三十二頭であつたが昨年の同月に比較すると牛四頭の增豚五十一頭の增馬一頭の減で合計五十四頭多くなつてゐる

紅燈街

植田町藝妓演劇大會は菊田座において三十、三十一の兩日午後六時より行はれたが番組は「扇屋熊谷」「鞘當」「鎌倉三代記」「お輕勘平」「白浪五人男」「將門」その他數番で出演者は三十餘名の藝妓總出であり殊に「白浪五人男」は呼び物であり雨夜共會場溢るゝばかりの盛況裡午前一時頃終了豫想以上の好成績であつた

品質本位
白鶴
多少に拘らず配達
迅速勉强第一に勤めます
辰ノ口本家
平窪 松本德一
電話(平)七五二番

ナツフク

小學生		中學生	
一年生	八十錢	一年生	貳圓四十錢
二年生	九十錢	二年生	貳圓五十錢
三年生	一圓	三年生	貳圓六十五錢
四年生	一圓十錢	四年生	貳圓七十五錢
五年生	一圓貳十錢	五年生	貳圓八十五錢

平町四丁目停車場通
正札堂

小供洋服生地
今夏の新柄が澤山揃いました
相かはらず御用命の程御願い申します
各女學校御用達
平町田町
ハシモトヤ糸店

內臟外科 骨關節外科 專門 藤本順
整形外科 産科 婦人科 院長 木村寅次郎
外科 婦人科
平町新川町 木村醫院
電話一六四番

ユラノスケ 粕取燒酎 (六月一日ヨリ發賣)
二合白瓶一本 二十五錢
(從來通り空瓶交換仕可候)
平町四丁目驛通り
永山酒造店總發賣元
電話一〇七番